



第3回避難訓練を行いました。

1月17日(金)に「第3回避難訓練」を行いました。全く予告をせずに、20分休みの時間帯を使って行いました。訓練開始時には、子どもたちはさまざまな場所に散らばっていましたが、さっと行動ができ、わずか2分16秒で最終点呼までを終えることができました。今回は、「東南海地震(震度5強から6弱の地震)が起こり給食室から出火した」という想定で、教頭先生による放送の指示に従い、身を低くし、揺れがおさまるのを待ってから、指定されている避難場所へと移動しました。校舎内にいた子は防災頭巾をかぶって、外で遊んでいた子は校舎から離れることを意識して避難をしました。避難時の心構えとしては、「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」の『おはしも』を意識しました。いざという時に、焦らず冷静に行動・判断ができるようにしてほしいと思います。災害時は、ちょっとしたことで命を失うことにもつながります。自分の命は自分で守れるように、今後も意識を高く持ってほしいと思います。

今から30年前、1995年1月17日午前5時46分に兵庫県の淡路島北部沖の明石海峡を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。後に「阪神・淡路大震災」と呼ばれるこの大地震は、約6,500人もの犠牲者を出しました。死因のほとんどは、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫死だったと伝えられています。また、昨年の元日には、最大震度7の「能登半島地震」が起こり、石川県を中心に災害関連死を含め、505名の多くの方が亡くなっています。



自然災害はいつやってくるかわかりません。ご家庭でも、災害が起こった場合には「どこに逃げるのか」「お互いの連絡方法はどうするのか」「現在、非常袋はどこにあって、誰が持っているのか」等、ぜひ災害時の対応について話し合い、確認をしてみてください。

新年試筆をしました。(校長編)

1月15日(水)、私も子どもたちに負けないように新年試筆をしてみました。今回は、「出会い ふれあい 語り合い」「自律」「自立」「思いやり」「やさしさ」と書きました。

「出会い ふれあい 語り合い」は、本校の基本目標「親しみや誇りを持ち、ふるさとを大切に想う子どもの育成」、その要素となる「水沢と共に育つ子どもの育成(CS目標)」「豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」につながるものだと考えています。

日頃から地域の皆様にお世話になっている、校区探検、茶摘みや園芸・栽培活動、地区施設交流等の活動を通し、地域の方々と出会い、ふるさとを大切に思う気持ちや子どもたちを大切に見守ってくださる心にふれることによって、子どもたちには、あたたかい人としてのぬくもりを感じ取ってほしいと思っています。また、情報化社会が急速に進む中、人と人が対面しての「おかしな遊び」や「水沢音頭踊り」、地区文化祭コラボの地域の方々をゲストティーチャーとする授業は、とても大切な活動であると捉えています。急速に変化する時代であるからこそ、私たちが人として忘れてはいけない「人と人とかかわり、ふれあうこと」を大切にしたいと思っています。子どもたちには、人と人とかかわることで成長していく実感を、活動を通して感じ、しっかりと考えていってほしいと思っています。そうした中で、子どもたち個々が何かを感じ、自分の考えを持つことができ、出会った地域の方々と、思ったことや感じたこと、それをもとに考えたことを整理して語り合うことができたら、とても素敵なことだと考えています。まだまだ小学生段階では難しいことかもしれませんが、そういった活動を通し、最近大切だと言われるようになった非認知能力(好奇心、がんばる力、コミュニケーション能力、誠実さ等、テストなどによる数値で測れない力)についても向上させていきたいと考えています。



それともう一つは「自律」です。最近の様子を見ていると、自分で決めた規範やルールに従い、自らの行動をコントロールできない子どもたちが増えてきているように感じます。まず「自律」ができて、「自立(他の助けや支配を受けずに、自分の力で行動する)」につながっていくのだと私は思います。これからの社会を生きていく上で「自律」と「自立」はとても大切な態度だと考えています。新年試筆では、そんなことを思いながら筆を走らせてみました。(文責 北住 昌文)